

第2回 名張市総合計画審議会議事概要

日時：平成27年5月1日（金）午後2時～午後4時

場所：名張市役所庁議室

委員出欠状況：欠席... なし

市・事務局：企画財政部、森岡部長、森嶋理事、財政経営室 石橋室長
総合企画政策室 山下室長、中重

1. あいさつ

(会長)

本日はご多用のところお集まりいただきありがとうございます。お手元に名張市の財政状況の資料が配布されておりますけれども、総合計画と言うのは夢を語る場所であり、どういうふうなまちにしたいか、あるいは、なばりをどのようなまちとして飛躍をさせていくか。これを語る場がありますので、その観点から積極的なご意見賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、財政経営室長より名張市の財政状況について説明いただきたいと思います。

○財政経営室長より資料に基づき財政状況の説明。

(財政経営室長)

このような厳しい財政状況でありますことから、財源的には、あれもこれもというような総花的な事業実施は困難であると考えております。より一層この少ない財源を、真に必要な事業に選択と集中と言う形で使っていくことが求められていると、考えております。

○財政経営室長の説明に対する質疑

(委員)

合併特例債のご説明がありましたが、これは平成15年4月に合併しなかったってことですか。いつまで出るのでしょうか。

(財政経営室長)

元々は10年という期限でしたが、国の制度が15年まで延長という形に変わっております。

(委員)

あと3年くらいは差が出て来るとのことですか。

(財政経営室長)

そうです。

(委員)

「投資事業の抑制が図られている」という言葉がいくつかの文章に出て来るのですが、10年という長期計画を作っていく中、例えば将来負担比率の改善、どれくらいで見通しを立ててますか。

(財政経営室長)

中期見通しは毎年作っておりますが、基本的には今の財政状況は基金、貯金が全くない状況であります。その中でまずは貯金ができる体制まで持ってこなくてはならないと思っています。

現状では毎年の予算を組むにも、今年も水道事業会計からの借り入れをおこなって予算組みをしているような状況です。また特定目的基金という特定目的のために借りた基金からも借りております。そういったものも返済し、尚且つ公債費比率、借金の比率をある一定まで下げて初めて次の段階に進めると思っております。

難しいのは国の施策によって（交付税の増減など）左右されるところもあり、いつまでに直ると言うところまでは明確に出せない状況です。

投資事業など、当然全てが補助金ではなく一定の借金、起債をして建設事業をしなくては行けないのですが、「今年返す借金の返済額よりも多く借りない」を基本に、起債を減らしながら徐々に借金を返して起債の比率を下げっていくといった方向で考えております。

（委員）

今まで私は「今の状態が最悪の危機」だと何度も聞きました。4年前にも聞きました。「今が最悪、だから4年頑張れば良くなっていく」という言葉を聞いています。なのに、また厳しい状況になっている、財政は財政で具体的な目標を立て、最低限三重県の平均くらいになるにはどうするといった目標を挙げていただきたい。

それと、元々私ら名張の住民は伊勢湾台風の時に、国から出たお金が残っていると思っております。50年前に、名張市の財源としての大風基金がそのうちに使われていったという形でより一層厳しくなってきた訳ですが、その辺はちゃんと計画を立てた形でしていただきたい。「最悪」と言われてもどうしようもありませんので。これで4年我慢したら、あと次の年からは、委員長がいわれたように、「将来的に夢の持てる名張市の方向を」と思いたい。しかし実際それはなかなかできにくい状況でございますので財政として厳格な形でやっていただきたいと思っております。

（会長）

それはご要望という形でよろしいでしょうか。

（委員）

はい。

（委員）

自己資本率の面から、本年度の271億円の予算に対し市税が92億円となっているが、予算に対し市の税収は、自己資本比率は増えているのでしょうか。国の政策によってではなく、市の経営体質は強化されているかどうか問題なのですが。

（財政経営室長）

交付税を除くと市の主たる自己資本は税となります。税につきましても、人口によって大きな変動があります。本市も人口が減ってきている状況の中、それに伴い税も減ってきます。さらに、団塊の世代の方が一気に定年を迎えていっている状況であり、そうすると税収も一気に下がってきています。なおかつ地価の下落により固定資産税も去年と比べると下がっています。そういったことで税収は年々減少傾向であります。

（委員）

財政力指数というのがないと聞いたのですが、それは上位にあると聞いていますが。4位か5位と聞いたのですが。

(財政経営室長)

今、財政力指数は7位です。ただこの財政力指数というのは曲者でございまして、例えば津市ですと都市計画税が20何億円とか、そういった税金があるのですが、財政力指数を計算する時には計算に入れておりません。伊賀市は8位ですけども、伊賀市は合併特例債とか別の財源があります。あと例えば、伊勢市とか松阪市も名張市より下位になりますが、伊勢市は毎年14億、松阪は12億、別に都市計画税というのがあったりする訳です。

財政力指数だけでいうと名張市は今、県内で真ん中ですけど、財政力指数に現れない税金などがありますので、財政力指数だけで判断出来ないところがあります。

(委員)

何を資本にするかというのは、色々あるかと思うんですけど。

(会長)

そういうことございまして、名張市の財政状況、決して良い状況ではないということはお分かりただけたかとは思いますが、しかしながら、それだけを考えていては、総合計画は作れない訳でございまして、財政状況についての説明と質疑応答はここで一旦締めさせていただきますと思います。

本日の審議内容に入っていきたいと思うのですが、お手元の方に第1回名張市総合計画審議会意見総括というものがございましてでしょうか。大体、前回序論のところ皆様方にご議論いただいた内容を大まかにまとめたものを書いています。こういった形でお認めいただけますでしょうか。

(委員)

私が言わせていただいた1点は入っているのですが、一番重大な「商業振興」「産業振興」の意見が挙がってないのはどういうことですか。

(会長)

一応、基本構想でアピールする内容についての3点目のところをご覧いただきたいですけども、「財政が厳しい中でも、名張を売り込むのが大事であり、教育商工など積極的にとらえる必要がある」という、こういった形で書かせていただいているんですけど。

(委員)

文面としておかしいと思います。「教育」は教育で色々な形で取り組む必要があるが、「商工業」という形も別途考えなければ。この表現では、はっきりした表現にならないと思います。前回の議事録なり見ていただけたら良い訳ですがどうでしょうか。

(事務局)

皆さんからいただいた意見は、現在、別に議事録を作成中です。近日中にホームページなどを通じて公表させていただきます。色々な意見をいただいております。基本構想についてご審議いただく場もそうですし、また庁内で個々具体的な取組内容を決めていく際にも、委員からいただいた「商工」の部分も力を入れていくべき部分と考えております。

今日お示しした資料の中で、教育、商工を一緒にしてしまい、商工・教育、双方の印象が薄れてしまったことは事務局としてはお詫びをいたします。ついては今日ご審議いただく中では、当然商工・産業そういった意見があったという前提でご審議を進めていただければと考えております。

(委員)

分かりました。「教育」は「教育」、「商工業」は「商工業」と別枠に割った形で表現をしてください。それでなかったら、こういう中途半端な表現をしないようにしてください。

(事務局)

はい、承知しました。

(会長)

そういう形でもよろしいでしょうか。他にご意見ございましたら。合わせましてなんですけれども、今日の審議の内容もそうなんです、皆様方より色々なご意見をいただきまして、第4回目の審議会で修正案という形で改めてご提示させていただきたいというふうに思っておりますので。まずはこれまでの御意見を、次の修正案を作成する中で取り込んでいくということでご理解いただければというふうに思いますが。そういう形での進め方でよろしいでしょうか。

※委員からの意見なし

意見総括についてはよろしいでしょうか。では、前回はご欠席の方、ご発言の無かった方もおられますので、皆さまが総合計画に対してどういう風なお考えをもって（審議会に）来られているかなど、審議に入る前に、お1人1分ずつの挨拶をお願いいたします。

※委員一人ずつ挨拶

2. 基本構想（素案）の審議

(会長)

本日は第1章から第3章まで、ここの部分についてご議論をいただこうというふうに思います。

繰り返しますけれども、先ほども申し上げましたようにご議論いただいて、ここはこういうふうにした方が良くないか、もっとこうしたことを取り入れた方が良くないかというふうなご意見をいただきたいと思います。ある程度審議会全体でそうですねという話になったということであれば、それを修正案の方に取り入れまして、第4回の審議会の方で提示させていただきたいと思いますので、その点あらかじめご承知いただければと思います。

では、ご意見のある方はご発言をお願いします。

(委員)

基本構想の第1章「まちづくりの基本理念」からです。「福祉の理想郷」僕もずっと聞いていますし「福祉」という言葉は広義で書かれていると書いてありますが大抵の人は誤解していますね、弱者救済の福祉と。これをもっと分かりやすく、タイトルを「福祉の理想郷」ではなくて「幸せの福祉の理想郷」だとか、タイトルからもっと分かりやすく表現したら良いのではないかと。「福祉の理想郷とは、広義の幸せを考えています」というのでは勿体ないと思います。

(会長)

どうでしょうか。タイトルに関してなんですけれども。一方で元々この素案では前回との継続性だとそういうふうな部分も話としてはあった訳でありまして。だからこそ「新・理想郷プラン」という言葉ですとか、あるいは前回審議したところでも「福祉の理想郷」という言葉は出てきたんですが、その辺は委員の皆様方のご意見を踏まえたうえで最終的にはどうするのかということになりますので、その辺についてどのようにお考えかご発言いただければと思います。

(副会長)

「福祉」というのは、「幸福」と言う意味です。幸福の理想郷です。福祉の理想郷と考えるからややこしくなる。だから私はこの「福祉の理想郷」で結構だと思います。過去から平成27年度までの総合計画の進捗状況を見ると、一朝一夕になかなか進まない訳です。というのは、当初担い手がたくさんいたのに、だんだんと税の担い手が減ってきてですね。構想だけはちゃんと描くのだけれども、実態がなかなか付属してこない。そのような中、財政が蹴飛ばされ、もう1発カウンターパンチみたいなものですけれども。私はこの「福祉の理想郷」という言葉は非常に幸せなまちづくり、幸福な地域づくりをやっていこうという言葉・表現に置き換えられるので良いと思っています。

(委員)

私は逆に委員さんがおっしゃるように、また私の周りの人とも話をするがありますが「福祉」というのはどうしても限られた人を対象としたものという捉え方しか出てこない。だから私は関係ないとかいうように捉える人も多く、市でそういうプランを出しても「それは私たちのことではないわ」と受け止める方のほうが多いように実感しています。言葉としては確かに幸せということかもしれないが市民に伝わらなければ役に立ちません。サブタイトルを入れるでも構わないですし、もっと全面的に「市民全体の幸せを考えているんだ」というところをアピールするような形になっていかないと、いつまでもここで一生懸命皆さんでお話されても市民には伝わっていかないのではないかと私自身は思っております。

(委員)

私もこのタイトルに違和感があります。ワークショップの時にそういう意見がグループで話している時に生まれて。この「理想郷」という言葉を調べたら、「現実には存在しない理想の土地。理想郷ユートピア。または理想的な想像上の世界、ユートピア」という和製英語だそうです。そこで、「理想郷」は「あの世」を連想するといった意見が生まれて、私もこの言葉に、つまり最初にこの総合計画が10年前に出た時も、この「郷」という字に少し違和感がありまして、「あっそうだったんだ」と思いまして。名張市総合計画に「理想郷プラン」というのがついていること自体も、ぼんやりして、意味がはっきりしない気がしますし、下に小さく「福祉の理想郷の福祉とは、広義の福祉、すなわち幸せ」という但し書きがありまして、「福祉」というのも調べたら「幸せや豊かさを意味する言葉であり、全ての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を指す」ということなので、広義の意味で言えば市民に対して「幸福と社会的援助を提供していきます」という市としての姿勢だとは思いますが、ここで「福祉」と書くと先ほどの委員のご意見にもありますように一般的な高齢者福祉とか生活援助とかそういう意味の「福祉」を思い浮かべます。ここでわざと幸せとか書いているのを見ると分かりにくいのかなと思います。

(会長)

私自身の意見というほどではないんですけども、委員さんがおっしゃったサブタイトルみたいなものを付けていくというのは割とありなんではないかなと。あるいは、そのサブタイトルで市民全体のことを考えているんですよっていうふうな言葉を入れていくというふうな形ではどうですかね。

(委員)

「福祉」はこのままでということですか。

(会長)

一応は「福祉の理想郷」でティルダを入れてその間にちょっと何かこう。

(委員)

長くないですか。

(委員)

これ長期計画は一次から二次といった流れでしょうが、二次という捉え方をやめても良いのですか。全く白紙に戻して、名前から含めてね。もう1回「新・理想郷プラン」じゃなく新たな長期計画を策定という形でも良いのか、元々のそれを前提に議論をするのか。名前はやはり「理想郷」というのは、今には合わない言葉ですよ。端的に言ったら古いかなという気はするんですけど。注釈を加える必要があるというのは、市民からはイメージが(わかりにくい)。注釈を加えなくても良い言葉にした方が、平語に変えた方が良いと思いますけど、果たしてそれはできるのかな。

(会長)

おそらく修正案を出す際に庁議にかけられる形になるんですよ。そこの庁議との関係でいうとどうですかねっていう。

(事務局)

「全くもって、これについては修正できません」とはなかなか言い切ることはできません。ただ、会長のお言葉にもありましたように、亀井市長が就任し作成したプランです。この継続性という意味から、あえて「新・理想郷プラン」という言葉を市として選びました。これを使わせていただきたいというのが事務局の考えでございます。

(委員)

市長も選挙でこの言葉で出馬している。それに対して信任されたということだから名前の変更は難しいのではないのでしょうか。事務局としても。

(委員)

でも名前で信任されてる訳ではないですよ。

(委員)

いや、これ説明しているからね。

(委員)

ですから、中身を説明しているので、タイトルを変えたら嘘になるということでもないでしょう。

(委員)

おっしゃることはよく分かるけども、これを議論してもそれが無駄になってしまう。

(会長)

ちょっと副題を考えてきていただけないですかね。少し加える分に関しては問題ないのではないかとこのように個人的には思うんですね。

(委員)

僕も最初言ったのはそれです。全部キャラにしよという話でなく何かを入れるとか。

(会長)

なので、もし今日こういうふうな言葉を補うとかご提案があるのであれば、それを出していただいても良いです。あるいは、今日ぱっとは出てこないということであれば、次回の最初とかそこ

で少し案を揉んでも良いのかなというふうには個人的には思います。というのも、第1章というのは結局第2章以下のその部分を一番抽象的な形でまとめた部分になりますので。「福祉」という言葉が割と一部の市民を代表とした限定的な言葉に捉えられているので、その点について注意しないといけないという、そういったところでまとめさせていただきたいと思います。それからもう一つ、「理想郷」という言葉についても語弊があるんじゃないかということなんですけれども、ここについても皆が住みたい・住み続けたいという、そこは先ほどの委員さんの意見も同じお考えをお持ちだと思いますし、その点をうまく例えば第1章の文章の中で、もう少し補うなどしてフォローさせていただければと思うんですがいかがですかね。「理想郷」という言葉をこう。

(委員)

1つの考えとして言わせていただいただけです。

(会長)

一応そういう形でというふうな。

(委員)

さらにティルダ付けてサブタイトル付けるというのもありだと思います。例えば違う言葉を付けてティルダ付けて福祉の理想郷というやり方も。

(会長)

ありだと思います。

(委員)

その方が分かりやすいのかなというふうに。

(委員)

そうではなく、「福祉」という言葉が市民からみて限定された印象になることに対する議論であれば、いくらサブ出しを付けようが「福祉」という言葉が残る限り、あるいは「理想郷」という言葉が残る限り、市民から見た場合「こうだ」ということになるので。それ良いのですか。

(会長)

例えば「福祉の理想郷」の方が副題になると、そうしても一番わかりやすい表題のところには全市民が、あるいは団体さんも含めて商工さんも全部含めてっていうことを言葉でうまく出せれば良いのかなという気は個人的にはしますけれども。

(副会長)

先ほどから話したとおり、過去2004年から取組を進めてきている第一次の理想郷に対する成果とか色んなことがあって、第二次の形に入っている訳だから、根幹を揺るがすような話が出ないようにきっちり事務局として対応されたい。もっと先に進まないといけない。「福祉の理想郷」は「理想郷」でよいではないか。第二次に対してはそれにいかに色付けをし、欠点を直し入れるべきところを入れてやっていくか、ということを考えないと行けないでしょう。これから10年間の計画を立てる訳やから。

(会長)

ここは審議会という場ですから、それは答申を出すようにということで求められていますし、そういう意味では自由活発な意見があってという形になりますので。私がうまくまとめてないのが一番の問題ですけれども。ともかく、そういうふうな意見があったということと、もしできるので

あれば「福利の理想郷」っていう言葉を例えば副題に入れるなり、皆さん市民全体が対象の総合計画なんですよっていうことが分かるような文言を考えていきたいと思います。これは私だけじゃなくて事務局さんも、だけじゃなくて当然こちらにいらっしゃる委員の皆さん全員の宿題ということで。次回までにちょっと考えてきていただくということでお願いできますでしょうか。

(副会長)

「福祉の理想郷」を修正する必要がないという委員もいることをお忘れないように。

(会長)

はい。

(委員)

初めにご挨拶という形で市長も出してますよね、その中で市民のことを考えての「福祉」というものを訴えられていると思うのです。ですからこのまま、あまり付けられない方が良くはないかと。市長が良いとしてやられている。ことあるごとに「福祉の理想郷」でお話をされて、その中で話をしてる訳ですから。

(会長)

「福祉の理想郷」という言葉はどこかには残したいと私自身は思っておりますけれども。

(委員)

それで良いんじゃないかなと私は思いますけど。

(副会長)

今日の審議は16ページまでだな。

(会長)

一応一通り今日はそこまで議論を。

(委員)

順序、2章をとということじゃなくて。

(会長)

場合によってはまた最初に戻るって話になる可能性もありますので。とりあえずタイトルに関しては一旦置かせていただいてよろしいでしょうか。では次の話の方に行かせていただきたいと思います。

(委員)

2章の下の「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち」ってありますね。これ実は第4章の政策大綱の1番から5番と非常に関連あるんやけど、突出した機能が名張が個性を出すという中で豊かでない自然ってどこかのまちにあるかなって。「文化も自然も豊かでのうてええねん」とか「皆が元気でうてええねん」とか。これどこでも全国共通の話になってしまっただけで名張の突出した話になってないのではないかな。つまり、僕が言いたいのは、豊かでない世界を求めたい自治体なんてないですよ。ただ、こういうのはありますよね。大を狙うか小を狙うか。大きなまちを狙うのか小さなまちを狙うのか。そこにはまちの意思がありますね。意思を感じないような文言を使うのはいかがなものかと、せつかく突出した名張を提案しようと言いながら、このタイトルはいかがなものかというのが僕1回目からの意見なんですけども。

(会長)

ちなみに前回というか、こちらの「現・理想郷プラン」ですね。「豊かな自然と文化に包まれて」ここまでは一緒なんですけど「誰もがいきいきと輝いて幸せに暮らすまち」だったんですね。「いきいきと輝いて」というところが「元気で幸せに」という形で素案がまとまっている訳なんですけれども。先ほどの副会長さんの話を受けるならば、そういうふうなまちの方向性がまずは良かったのかどうだったのか。この10年間ですね。果たしてきたのかどうなのか。で、それで良いというのであれば同じ方向性で行っても良いだろうって話になるでしょうし。あるいは、抜本的にもう少し見直さないといけないのではないかというふうな意見になるのかもしれませんが。私なんかはどちらかという継続性というのがとりあえず大事だろうと。ましてや、市長さんが変わらない中での方針がある中でということも斟酌しながら、しかしながら、でも名張を良くするための総合計画だと考えています。ましてや色々な背景を持った方にご参加いただいているということで、話をまとめていかないといけないとは思っているんですが、他の委員さんはどのようにお考えでしょうか。

(副会長)

これ何て言うのかな。幸せな地域づくりとか幸せなまちづくりとかいう理想はよく出るんですが、僕の好きな言葉に「郷土愛」ってのがあって。「郷土愛」で溢れた地域づくりをする。だから、名張市民がどれだけ名張市を愛しているか。これからも愛するか。ことによって将来像は変わってくる。多くの若者が出ていってますよね。で、帰ってこない。人口減しているような状態の中、やはりもっともっとう名張ってものに郷土愛を持たなければ。名張を高めていけば、さらに目指す将来像の中にそれを入れていけば、もっと定着する人が出てくると違うのかな。どこかに表現を入れてほしいなと思います。

(会長)

具体的な戦略に関しては次回の審議内容なんですね。第4章2節あたりに戦略の項目があります。多くの方が人口減の問題ですとか、あるいは、若者がどのように名張で住んでいくようなまちにするかっていうこの点についての戦略については、次回ご審議いただく内容ということになっています。その戦略を見つけるための将来像ということで委員さんから突出した名張をもう少し前端的に打ち出すようなキャッチフレーズと言いますか言葉にすべきじゃないかということで。どうでしょうか皆さんは。

(委員)

全然面白みはないですね。隣の宇陀市がこれを書かれても全然不思議じゃない。反発も食らわないけど記憶にも(残らない)。さっき副会長がおっしゃった「郷土愛」とか良いと思います。

(事務局)

事務局としてこの将来像に落ち着いたところといいますのは、市民ワークショップの皆さんからも、市民意識調査・アンケート調査からも色々なお声をいただきます。その中で、どれもこれも整理していくと最終的にこのあたりに落ち着いてしまうんです。例えば、最近市長がよく言います「将来現役のまちづくり」だとか「生み育てるにやさしいまちづくり」それだけをここに書いてしまうという訳にもまたいかない。総合計画というのは市全体を網羅した計画ですので将来像としてはここに辿り着いてしまうのかなと。ただそのような中で、副会長さんからもいただきました

そういった「郷土愛」。本文の5行目あたりに「これからもこのまちを愛し」というフレーズを入れさせていただいております、こういったところをこの表に出してくる。それは大いに事務局としては皆さんでご審議をいただいておりますとご答申いただければと思います。

(副会長)

美しくは書いてあるんやけどな。

(事務局)

何の特徴もないようなものになっています。

(委員)

基本的にはこれで良いと思うんですけども、さっきも言いましたが「誰もが」というのを「市民が」とか「みんなが」とかそういう平易な言葉で。「暮らせるまち」を「暮らせる名張」とかにです、平易な言葉に置き換えて。名前を入れることによって、もっと郷土愛も出るし、そうした方が良いんじゃないかと。今までの文章で「誰もが」というところも、「市民が」とか「みんなが」とか「住民が」とかそんな言葉の方に置き換えるのが良いんじゃないかなという気がします。

(会長)

例えば、前回も出たご意見ですけれども、「本市」という表現があまり良くないとかいうところがありましたけど。もう少しどいくらいに「名張」という言葉を例えばこの中に入れるというのはどうでしょう。

(委員)

そうそう。文章の中に入っても良いんですけども、どちらかというと校歌みたいな、スローガンみたいなものとして、将来像で名張はすばらしいまちだということ（表せば）。

(会長)

この構想の中にもう少し「名張」という言葉を入れていくという形で。

(委員)

文章の方は良いんです。よく表していますから。

(会長)

「愛するまち名張」みたいな形で入れていく形でいかがでしょうか。

(委員)

そうすると「郷土愛」とさっき言った「町土愛」のような具体的に出てくると思う。

(委員)

今回（の計画）、現行と大きく違うというところが、主役が市民・地域の人たちですよというところ。皆で一緒にやっていくんですよ。今回はそれがもう前面に出ていることですし、今の財政が困難やとかいう話も含めて、ともかくもう全部開けっ広げにして市民の方に皆に「今こういう状況やから皆でやんなあかんねんと。幸せとかっていうのは誰かが与えてくれるものでなくて、自分らでやっていかないと手に入らないよ」ということを皆に分かってもらわないと思うんですね。極力、口語体で行政用語は使わない、誰が読んでも分かるという内容にしないと。広島カーブのファン層じゃないですけど、「お金がないんやったら私らがなんとかしたろ」という気になってもらうためにも、やっぱり包み隠さず全部分かってもらうっていう意味で、分かりやすくしてほしいと思います。

(会長)

ありがとうございます。表現方法についても一捻りじゃないですね、もう少し考えていかないといけないということは、前回は今回も出ているご意見かなと思いますので、その点は改めてここで確認をしておきたいと思います。

それからもう一点、委員さんがおっしゃった中で重要だったと思うのは、考え方として「自分たちで幸せを取りにいかないといけない」というそんな状況になってきつつあるという、そういうふうなお話であったかというふうに思います。行政に全てを頼れる訳ではなくって、地域の力とか助け合いの部分の部分を大事にしていかないとこれからのまちづくりっていうのはできないんだ、あるいは教育もうまくいかないんだ、というお話があったかと思うので、その点をもう少し基本構想の中でうまく打ち出していくというふうな考え方で良いということによろしいでしょうか。

(副会長)

入れられますか。最後まで表現考えてくれますか。

(事務局)

将来像につきましては皆さまのご意見もいただいた中で、やはり分かりやすい表現、愛着が持てる表現に加工と言いますか修正案をいただくことについては大変ありがたいと思います。

(委員)

ものすごいディティールなことです、そういうことから言うと将来像の段落のある2行目(12ページ9行目)「市民とともに知恵を出し合いながら」の「市民とともに」という視点は行政が主体で書いています。「市民が取りにいく。市民がやりにいく」というこの表現は考えていただいた方がいいのではないかと。「おっ何や。市の文書か。」と僕は読んでいて思いました。

(事務局)

名張市としての計画ですが名張市民も含めたオール名張の計画です。皆で取り組んでいくというスタンスになるように、文章表現もそういった視点でチェックをいただければありがたいです。

(会長)

ちょっとよろしいでしょうか。実は委員さんから前にメールをいただいておまして、委員さんご自身のご意見を預かっているんです。おそらく細かい文章の表現とかもこちらの方でご提案いただいているんですが、こちら書いていただくよりお配りした方が良いと思うんですね。それで認識を共有いただいて、このペーパーに関して全て議論は時間上できないですけれども、ただ確かにそうだなと思うところは他の委員さんからもご指摘をいただくなり何なりという形で審議を進めてさせていただいた方が、おそらくより円滑化といいますか限られた時間の中で委員さんのご意見も共有できますし。そしてそれを踏まえての議論というのもできるかなと思うのでお配りさせていただいて良いですか。

(委員)

結構ですが、今読んでもらうとまた時間かかりますので帰って読んでもらったらと思います。

(会長)

むしろここで読んでいただいて、ざっと目を通していただくということが大事かなと思いますので。

割とそういったご意見をお持ちの方もいらっしゃるし、次回の総合計画審議会の方で考え

ていただきたいというご意見をお持ちの方は、皆さんにお配りをしたような形で今後もさせていただければと思います。認識を共有いただいた上でご議論していただければと思いますので、一応この場でお配りをさせていただきました。ざっと目を通していただければと思います。

お読みいただいている中しゃべって申し訳ないですけども、あと合わせてですけど、もちろん委員さんのご意見をベースに議論をするっていうそれだけではなくて、今日はもちろん1章から3章についてそれぞれお持ちのバックグラウンドをお持ちになってこちらにご参加いただいていますから、自由にご発言いただきたいということも合わせて申し上げておきます。

(委員)

今お配りいただいたのじゃなくて、この素案についての議論でも良いんですよね。

(会長)

はい、お願いします。

(委員)

15ページの「自然保全ゾーン」について分かりにくいのもう少し分かりやすい地図を付けることはできないですか。例えば、駅がどこでどこに川が流れているというのがすぐに分からなくて。端の方が自然保全でこの辺が町なんだと、何となくでしかわからなくて。正直この地図を見せられても何も言いようがないと思ったんですけども。今の地名を入れるとか、桔梗が丘とか名張市役所とか小学校を入れるとか。多分真ん中辺が市役所かなとか、何となくの模様でしかないのもう少し地図の載せ方をパッと市民が分かるように。ボーダーがどこなのか分からない。ゾーニングして市民に提示している意味がなくなってしまうと思ったんですけど、どうでしょうか。

(会長)

例えばこちらがガイド版の形ですよ。実はもう一つこちらの方に地図がありまして。こちらのイラストの方は近鉄の線路が載っていたりとかするので。ただ、目印をいっぱい書きすぎると、これはこれでまた見にくいという話になりますから、もう少し入れるというふうな形ではどうか。例えば線路を入れるだとか、というふうなことはできるのかなと気はしますけど。どうでしょうか、他の委員さんはこの点に関して。「土地利用構造図」のその標記の仕方について。

(委員)

会長、順番にやっていなくて良いのですか。

(会長)

全体的にもご議論いただいて、場合によっては第1章に戻ることもありうるだろうと。今日は3章までで全部やるつもりです。

特にご議論もないのであればもう少し分かりやすくという形で。

(委員)

一つには、まち協という形で15ブロックに分けているのであれば、まちのブロックが分かるようにしていくぐらいの気持ちがあっても良いのかと思います。地図に馴染みがない人も多いと思うのです。だから、必要な部分は地図でも良いんですけど、できたらイラストを多くして地図は極力減らす。その上で、先ほど話したように分かりやすく、自分がここに住んでいる、この地域は何という視点で見られるような形にさせていただければと思います。

(会長)

例えばもしできるのであれば、私は地図のソフトとかよく分からないんですけども、点線で15の地区を区切るという形にするとより分かりやすくなると。そういうご意見で、このようにまとめていただいた方が良いというのが今提案されましたけれども。

(委員)

あとせめて市役所。

(事務局)

地図に関してはあくまで土地利用のイメージ図でございます。境界をはっきりすると言ってもなかなか都市計画上できないと思いますが、ただ、おっしゃるように駅や市役所など、目印があるだけでも非常に分かりやすくなると思いますので、その辺は今後加工をさせていただきます。

(会長)

では、次の話に移らせていただいてよろしいでしょうか。他。

(委員)

前回の計画では「土地利用の計画」のところで「市街地ゾーン」「緑の共生ゾーン」「自然保全ゾーン」となっていますが、今回の素案では「市街地形成ゾーン」と変わっているんですが、これは何か意図があって変えてらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

現時点で市街地化されていないところもありまして、今後このあたりは市街地を形成していくゾーンという意味合いです。市街地ゾーンであるにも関わらず、農業振興地域と被っているといった部分もあるのですが、市の方針としては今後市街地化を図っていく場所、そういうチャンスがあれば図っていく場所というふうな理解で「形成」という言葉を追加させていただいています。

(会長)

よろしいでしょうか。

(委員)

ゾーンの話の中で、これ何々を創造しますとか色々書いているんですけども、イメージとしては条例か何かで規制をかけるのですか。今はないのですか。条例を作りますという長期計画になっているのですかね。例えば自然地域だったら騒音が80ホーン以下にするだとか。

(事務局)

一旦この土地利用方針は総合計画と共に「土地利用マスタープラン」というのがあり、その考え方を基に述べています。具体の条例であたり用途地域については、この土地利用の方針に基づいて、地域の皆さまと共に用途について都市計画の部門が話し合いをしております。その中で一定方向付けがなされた場合は用途地域指定という形で規制をかけていくことも考えております。

(委員)

なぜ条例化していくかといえば、例えば企業を呼び込もうとする際、インフラ整備やその他諸条件に対し資金が必要だとかいう問題がある。例えば70dBだったら問題ないが80dBになったら騒音対策が必要とか。色々なことを考える必要があるが、この長期計画では触れないで「こうしましょう」ということで流すんですか。

(事務局)

そうです。ここはある程度のゾーニングを示した中で土地利用の方向性を示しているだけです。具体的な用途地域指定であったり騒音であったり、どういった工場だったらこれ以上出したらダメですよとか、周辺に学校があったらダメですよとか

(委員)

企業誘致してくる時にそういうことはちゃんとその部門でやっている、書かれているということですね。企業はそういうところをずいぶん見るので。人・雇用を拡大しようとするために様々な新しい産業を呼んでくるとなると、アウトプットとインプットの両方をうまくやらないといけません。インする場合そういうところが非常に大事になってきますが、それぞれで整備してる訳ですね。

(事務局)

細かな部分はこの総合計画以外のところで整備します。ただ、場所なんかも含めてですかね。

(委員)

場所だとか環境対策だとか色んなところが必要になってきますね。環境対策も。だから、有機物の廃棄どれくらいとかどうとか、そういうところで規制はしているわけですね。

(事務局)

はい。そうです。

(会長)

委員さんの今のご意見を踏まえながらそういう用途地域指定的なことをもっとしっかりやっていくべきだといったことをこの総合計画の方に盛り込みたいというお考えをお持ちだと。

(委員)

盛り込みたいということではなく、ここで全てをできる訳ではないので。どちらかといえば考え方や方向性が重要であって。具体論としては、例えば企業を呼んで来ようとした時に、具体的にも増やそうとするでしょ、雇用創造で。そうすると、そういうところを整備しないとなかなか企業として来られないんで。産業計画していくんで、どんどんどんどん従来型二次産業型じゃなしに六次産業型となってくると、六次産業化に向けた整備をしていかないとダメなんで。そういうところは細かいところで整備をしていきましょうねと。

(会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。他、いかがでしょう。

ちょっとだけよろしいですか。特にご意見が出てないのが13ページの部分なんですけど。この点に関してはいかがですか。

(委員)

「活力人口」という言葉。これは普通に行政とかでは使っているんですか。

(事務局)

これまでは特に通常当たり前のようには使ってはおりませんでした。

(委員)

というのは、僕が勝手に使っている言葉で「活動市民」って使っているんです。例えば「ふるさと納税」、「納税じゃなくふるさと活動して」とか、名張出身の人に名張で色んなことをやりたい時に、「お金を渡さんけどここに来て川掃除一緒に手伝おか」とか。こういう人も市民として入れる

と「活動市民なんて呼び方良いな」と思って普段使っているんですけども。「人口ではなくて、市民って誰やねん」て、ここで初めて「活力人口」っていうのをお聞きしたので。

(事務局)

ありがとうございます。

(副会長)

ここ難しい言葉も多いな。「活力人口」、「生産年齢人口」、「定住人口」。「生産年齢人口」は15歳から64歳までとあるが、これ国で決めてあるやつかな。そういうのも初めて聞くような言葉。

(会長)

おそらく生産年齢人口の減少をどのように抑制をして、最初の話と結び付けるならばその財政状況維持をしていくかということでしょう。あるいは、もちろん高齢者の方も元気でお過ごしいただきたいですけども、それだけではなくて、まちとして子育てもしやすい、そして若い人も長く暮らせる名張にするためにはどうすれば良いかという、その辺がここの「消費人口の将来展望」というところに入ってきているだろうと考えます。あるいは、自己紹介のところで委員さんがおっしゃったように地域包括医療的な部分ですね、そういった部分も含めた形でどういった名張にしていくかっていう、医療体制に構えたまちにしていくっていうことが大事なんだということでもあるかとも思うんですけども。この辺の例えば目標みたいな部分であるとか、その点に対してはいかがでしょう。

(委員)

名張の中で1番良いのは健康人口。長いじゃないですか名張って。健康人口って今けっこう一般的になってきましたよね。将来展望の中で健康人口を何人にするっていうんじゃないし健康人口率を何パーセントにする(といった目標はどうか)。全国一目指せる数字だと思うけど。名張は、非常に健康人口が良いので。そういうことを入れたら良いんじゃないですかね。全国で今、健康人口について名張が良いところ入ってるんですよ。1桁台に入っているんじゃないですかね。

(会長)

健康人口が既に長いんだけど、もっと長くしようって。

(委員)

そうじゃなく、全国一を目指そうとか。「全国一」を書く必要があるかどうか別ですが。名張が誇れる非常に良いところとして、健康人口が良いっていうのは全てにおいて良いことやねん。

(会長)

健康寿命ですね。健康寿命をぜひ全国一を目指すとか。そういうふうな健康寿命に関する記述というのを。

(委員)

具体論として、理想郷の具体論としてそういうものが出てくる。

(委員)

そうすると、数だけの人口は減っても年寄りでも活動できる。

(委員)

そうそう。そういうことです。それを目指すかです。

(会長)

後はこの健康寿命という点と子育て・若者の定着っていうそこだと思うんですが。

(委員)

前回の最後の方での話ですが、若者をここに閉じ込めて良いのかという。ここというのは名張。武者修行じゃないですけど、ある程度までここで育て、それから外に出てまた戻ってきてくれる。個人的にはそれが理想だと思っていますので。最初から最後までここ（名張）にいたら、井の中の蛙でしかなくて。結局世間と言いますか大きな国の流れとか知らないまま、「どうせ私はこの田舎で生まれ育ったのよ」みたいな人間を作るよりは、一時期外に出て、先ほどおっしゃっていた郷土愛もそうですよね。行って、やっぱりここが良いから帰ってくるという人を育てたいというのが私自身の個人的な思いでありますし。割と若いお母さんと話をするとそういう反応ってけっこう返ってくるんです。私の周りでは大阪とか他のところからここに来て住んでみて良かった、子育てしていて良かったという話も出てきています。そういう魅力的な部分を前面に打ち出すと共に、人口的に生産年齢にこだわって「そこが少ないからこのまちはダメなんだ」というよりは、最初の郷土愛に繋がってくる、最後ここに帰ってくる、ここが好きなんだっていうところを人口展望のところにも言葉を入れられたら非常に未来は明るいのかなと、いかがでしょうか。かなり漠然としてますが。

(委員)

漠然としたことの続きになるんですけども。名張は過去急に人口が増えて急成長したという時期があり、それはなぜかということ、宅地造成の開発があったということと通勤時間を長くかけてもここで家族で一軒家を構えることに魅力があるっていう時期があったから、急に増えた。その人たちが高齢になったことで空き家が増えてきたとか。急成長をしたためにもう伸びしろがない、増加していないということですけども、人口が減っている要因をもう少し教えてほしいのと、先におっしゃられたように「子どもを育てるために名張に来る」という方向での人口増加・定着というのはとても大事な要素だと思う。それをどう表現するかは難しいですけど、そういった考え方を私はお伝えしたいなと。これらの考え方は多分共通で思われていることだと思うので、1つの意見として言わせていただきます。あと、その人口が伸びてきた時期があるのに、その時期が終わったのは時代の流れで、新しい宅地や大きな開発がないというのもあるのしょうけれど。もっと社会的な要因、名張としての何かマイナス要因があるとしたら参考に教えていただきたいと思います。

(会長)

まずは前回の序論のところであった人口等の背景というところに若干説明はあるんですけども、もう少し社会的な名張特有の理由というのはものすごくあるとは思うんですね。宅地造成がされて若い世代がその当時移ってこられて。その後移ってこられた方が定年退職を迎えてってそういう部分があるということは私自身でも承知しているんですけども。他に名張特有の何かそういった理由とかはありますか。人口が減ってきている要因っていうのは。

(事務局)

やはり今も昔も若い二十歳代は就職であったり進学であったり名張を離れているということは変わりません。ただ、やはりかつては住宅開発によって関西方面からの転入がすごく多い時代がありました。実際、増える要因としてもっとも大きな部分でした。それがここ最近減ってきている、

関西からの転入者が減ってきている、これが大きな人口減少の要因です。ただ、先ほど委員からもお話がありましたが、やはり今も20代がかなり多い数で転出をしております。一方で、30代については、この転入・転出というのはほぼイコールです。増減としては若干の減少はあるもののほぼ変わらない。出ていく方もいれば入ってくる方も多い。場合によっては子育ての環境や教育環境といったところで名張市に一定評価いただいているのかなと。ですので、そこをもう少し何とかならないかというところに焦点を絞ってやっていくといたしますのが「総合戦略」の方で、今同時並行で考えております。ですので、その辺の要素を皆さんでご審議をいただいてこういったところに盛り込んでいくというのは充分にして良い話かなと思います。

(委員)

一番の問題は、事務局の話のとおり大学に行って就職をされる。就職されたらそのあと都心部にいくと。この世代をどうしていくかが今後の名張の世代に関しての問題点だと思います。それと、転入・転出の問題がありますけども、人口が大阪から来て伸びてきた訳でございますがこれが止まりました。実質、近鉄の乗車数見ても平成7年が21,000人。今は12,000人です。43%減っている訳です。ということは、それだけ来ている人が少ないと。実質、私鉄でも一緒に、名張だけじゃなく大阪近郊の都市まで減っているんで、まずそっちからテコ入れしてるので名張まで来ない。宅地造成終わりましたけれども、今名張は十分に土地も空いているし建物も空いているという現状だと思います。だから、この辺は「基本的な考え方としてどうしていかないといけないか」ということを考えていく必要があると思います。

(会長)

ありがとうございます。特に大学を出たあとの、名張の。

(委員)

もっと言うと、ここに学校があれば良いですよ。出たら都心に行ってなかなか帰って来ていただけないという現状がございます。

(会長)

そうですね。なので、おそらく委員の皆様方で共有できているのは「名張に大学をつくろう」ではないんですよ。大学進学とかで一旦出ていくだろうけれども、そのあと特に子育てをするくらいの年齢になってきた時に戻ってきたいまちにする。そういう点では、ある程度合意が得られているというふうに見ても良いですかね。

(委員)

日本全国に、国際的に通用する人材を、名張ではそのための教育が受けられる、名張は教育環境が素晴らしいということ、その子たちが「名張出身ね。だから素晴らしいんだね。」というふうに思われるぐらい教育に力を入れて、その人たちは名張を出て行って良いと思います。逆に市外の人たちが「子どもできたから、やっぱり名張に引っ越そうかな。」っていうことを検討するような、そういうまちになれば良いなと思います。だから、名張市にいる子どもたちをいかに出さないか、いかに市外に行っても帰って来るかっていう、ヒモ付けて「はい、もう帰っておいで。」じゃなくて、よそから入ってきたくなるまちを目指した方が前向きだと思います。子どもを名張の中に入れておくのではなくて。それこそ、蛍くんじゃないけど、山口蛍くんがワールドカップ出たら名張出身の選手だってなるじゃないですか。そういう子がどんどん出てきたら良いなと思います。

(委員)

皆さんと全然違う視点やけど、こういう見方もあるというのだけご紹介しときます。僕、一応自然屋やってまして、名張の持っているこの自然の生産量、鎖国や環境、自給(自足の)樹立と言ったのは、ここで一切本当に食べられるものを作って、もちろん商業・産業もありますけどもこの地形から「自然力」をカウントした人口問題研究所とは別に自然力を研究しているところがあるんですが、名張でどのくらい稼げるか、この土地でというのを超ロングスパンでいっぺん考えてみると、僕は5万くらいやないかと思ってるんですけども。そういう見方も視点としては1つあります。それで僕は自給自立と鎖国と言った訳です。

次に、第2節の2番の「市街地形成ゾーン」「緑の共生ゾーン」「自然保全ゾーン」。これは僕の専門でもあるんで、「緑の共生ゾーン」「自然保全ゾーン」は美しいという言葉を使っていませんけど美しい雰囲気があるのですが、「市街地形成ゾーン」については「秩序ある」といった程度しか書いてないのもっと「美しい」(という表現)を、まちなか大好きな人間としてはきちっと強調してほしいと思っております。「緑の共生ゾーン」は良いですね。「自然保全ゾーン」。これは日本の自然「白神山地」まで含めて人間関わっての自然です。ほっといて保全している自然はないんです。そういう意味で「復元」もしたい。痛めてしまっている自然の復元もしたい。団地で空きになっていたところを畑に戻しても良い、山林に戻しても良いと思いますが復元もしたい。さっき委員の言われたあんまりきちっと土地計画区域を分ける様な話については、このまちではゾーンが連続するということに大きな(項目として)、4番目に「連続」というのが本当はあるんじゃないかというふうに思っております。

次に、都市構造のところの1行目に「清らかな川」と。川と水の扱いを入れてもらい非常に嬉しいですが、昔を知っている人間にとっては「何やねんこの山と川どないなった」というふうに思っています。それから、ものすごい言葉「集約連携」という言葉。何でこの言葉をもっと前に「集約連携のまち」小さいけど連携しているまち。何でこんなええ言葉を表に出さないのかと思いました。

(委員)

感じたことですが、今人口の増えているところ、近畿圏、東海圏では滋賀、岐阜、奈良は増えてます。減っているところは和歌山。なぜここが増えてなぜここが減ってるのかとか現状分析してみたら良いと思いますが40年くらい前に(名張に)来たとき先ほど自己紹介で言いましたが、若者が出て行くっていうのは40年前にも、つまり2万人くらいの人口の時も出て行っているんですよ、元々ここに大学も学校もなかったんで出て行くんですよ。その現象は変わってない。ただ人口が増えた分だけ人数が増えているということだけであって、したがって、私も来ましたが、(多くの世間の)皆さんの心の中で1時間半とか2時間は遠いってすぐ言われるんですね。なるほど大阪からここまで来たら気温にしても3度ぐらい違いますかね。でも、東京から考えたら三浦半島とか銚子だとか2時間半くらいが通勤範囲なんです。だから僕は田舎ということは心の中では思う必要はないし、こんな便利なおとろはないと思うんです。今ましてやグローバルになっているんで、何も大阪や東京などは新幹線とか飛行機だとか色々ありますから距離はあまり感じない。特にこれからIT次産業化してくれば距離なんて全然関係なく世界で相手できるので。そういう意味では、何で人口が(減ったのか)。私が来た時には、なぜ2時間半とか1時間半とかかかると言われてたのに来たのか、それは子どもの教育のため、ここが良いとか、安いだとか、緑があるだと

か、温泉があるだとか、魅力があったからね（名張に移って来た）。その魅力が最近薄れてきているんで。出て行く人を、子どもを、グローバルにやっぱり教育する方が良いと思うんで。出て行く人よりも、入ってくる人の方が多かった時もあった訳です。だからその原因をはっきりさせたいのではないかと。長期計画の方に反映させるべきだと思います。魅力があったんです、名張に。私、通勤で40年間、2時間かけて通いましたけど、朝5時50分の電車に乗ったところでどうってことないです。帰って来るのは夜11時半ですよ。どうってことなかったです。それは、子どもの教育のため。土日は自然が豊か。昨日大阪から親戚の人が来られて、こんなに自然が豊かなとこ（はない）、「緑が青い」って、緑がものすごい良いって言うんですよ。僕らは当たり前やと思っているけど。僕も40年前はそうだったんじゃないかなと思うんですよ。そういう点からすれば、今だから子どもが出て行くんじゃないんですよ。前から出ていたでしょと。今名張のそういう魅力が発信できてない。企業が減ったと言いますが大阪でも減っている。全部海外グローバル生産で展開しましたから減っているんです。ところが今国内回帰してきているんです。これはチャンスだと思うんですよ。そこでもう一度名張の魅力を出すべきだと思うんですよ。「緑」、「自然」。遠くはないと、ここは都会からは。もうひとつ、先ほど委員がおっしゃっていましたが、医療の方があれかなと。僕の同期でもここに来てまた大阪へ移り住んでいる方もいて、何でもかと言うとやはり年取ると医者です。ところが緊急医療体系も整備されてきているんで、よくなって来ているんで、そういう魅力もあるんです。さっき健康寿命と言いましたが、そういう魅力をポジティブに捉らまえて発信すべきだと。この長期計画の中に。

（副会長）

今おっしゃる内容は「政策の大綱」というところで、次の章ですね。次の章で今おっしゃっていただいたことなど、どんどんと色付けしていったら非常に良いじゃないですかね。あと、創生会議の場では、より具体的内容を詰めていくわけですが、この審議会は「将来こういう状態ですよ」という展望を審議するということでしたら、これくらいにしては如何かと。

（事務局）

はい。今お話しがありました「創生会議」ですが、名張市の「総合戦略」というのを作っております。それは、ご存じのように安倍内閣で、石破大臣が創生担当大臣として人口減少問題など東京への一極集中を、これを是正するとして国が力を入れており、名張市においても総合戦略を作っております。ただ、総合戦略の一番の基となるのは、やはり名張市の「総合計画」です。総合計画の中で人口減少というのを大きな問題として捉え、将来の展望も見据えた中でその人口減少の問題だけに特化して計画を作っていく。これが「総合戦略」です。人口減少の問題、また同時に高齢化の問題以外にも取り組むべき大事なことがたくさんあります。それらを総合計画で全体的に包含していくと考えます。人口を維持に関するところは、さらに今作っております総合戦略で色濃く、名張市がそうしたらどんな取り組みをして行こうと、整理をさせていただいているという形です。

（会長）

他にもご議論あるかと思うんですが、けっこうな時間になっています。全体として今日出た話を私の中でですけれども、まとめてみると、1つは1章2章に関してはですけれども、特に福祉という言葉に関しては一部の人だけを対象にしているようなイメージがあるので、それを払拭する努力をしないといけないということ。これが第1点ですね。そしてもう1つが、やはり名張としての

突出したものを出していこうというふうな話があったと思うんですね。これが2つ目であります。中でも帰ってきたいまち。一旦大学などで名張市の外に出たとしても、帰ってきたいまち。子育てしたいまち。あるいは、子育てするのに相応しいような教育がなされるまち。そして、健康人口率だとか健康寿命が日本一であるようなまち。そういったまちを目指すという方向性をより強く打ち出していく。そして、もちろん、自然ですね。自然と一緒に暮らしていける。ましてや先ほど委員さんからお話がありましたが、1時間半でも2時間でも通えるし通いたい、通ってでもここに暮らしたいという人が増えるようなまちにしないといけない。それは、30年前40年前あるいは20年前でもそうであったはずだという話がありましたけれども、それは結局のところは、もう1度繰り返すと、子育て環境が良くなって、教育環境が良くなって、自然環境が良くなって、健康寿命だとか健康人口が非常に多いそういうふうなまちを目指す。その部分において名張が突出できるようなまちにしたいよということを、今回ご審議いただいた基本構想の1章から3章のところでもう少し前面に押し出せるような形でちょっと文章を練り直すということでご理解をいただいたと、ある程度合意が得られたということですのでよろしいでしょうか。

(副会長)

これ、地図はちょっといらうんやな。

(会長)

そうです。はい。他、何かご意見等ありましたら。では一応そういう形で今日の議論は締め括りをさせていただきます。

3. その他

(会長)

次回の日程に関しては事務局から。

(事務局)

次回6月5日に第3回目を開催させていただきたいと思います。

(会長)

では、本日はこれで締めさせていただきます。